

第1章 自立活動について

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）総則、第1章第4の2の（1）のイの（ア）において、**特別支援学級**における特別の教育課程について「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動を取り入れること。**」と定められています。中学校学習指導要領総則においても同様の記載があります。

また、**通級による指導**における特別の教育課程として、小学校学習指導要領総則第1章第4の2の（1）のウでは、「障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。**（抜粋）」とあり、中学校学習指導要領総則においても同様に定められています。

このように、特別支援学級及び通級による指導において、自立活動の指導を行うことは必須です。

1 自立活動の意義と指導内容の取扱い

平成30年3月に出された特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）においては、以下（抜粋）のように示されています。これ以降の文中に示す「p〇〇」は同書を参照ください。

（1）自立活動の意義（p21）

小・中学校等の教育は、幼児児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められている。そして、その教育の内容は、幼児児童生徒の発達の段階等に即して選定されたものが配列されており、それらを順に教育することにより人間として調和のとれた育成が期待されている。

しかし、**障害のある幼児児童生徒の場合は、・・・同じように心身の発達段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。個々の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となる。**小・中学校等と同様の各教科等に加えて、**特に自立活動の領域を設定し、それらを指導することによって、幼児児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指している**のである。

（2）自立活動の内容（p21～22）

自立活動の内容は、**人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素**

と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素の2つがあるとされ、これらは心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものであり、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割とされています。

(3) 自立活動の指導 (p 23)

自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に即して指導を行うことが基本です。

(4) 指導内容と取扱い (p 24～25)

大切な留意点として以下の2つが挙げられています。

- ・ 指導すべき課題を明確にする。
- ・ 6区分27項目すべてを取り扱うものではない。個々の幼児児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものである。(本書第1章2を参照)

ここまでのまとめとして、自立活動の指導は個々に違う課題に対する指導であり、オーダーメイドの指導が必要であること、また個々に違う課題に対して、指導を行う教員が家庭や他の教職員から情報収集しながら目標や指導内容を設定し行う必要があります。

個々の課題について考える場合、現在困っていることだけではなく、将来にわたって身につけておくことよいかは何かも併せて考え、優先順位をつけて取り組むことが重要です。

例えば集団参加が難しい児童の場合、教師の配慮として落ち着いて活動ができるよう、パーティションで区切った場所を利用する場合がありますが、将来を見据えると、パーティションがなくても活動できる場面が増えるよう、あわせて支援の方法を考える必要があります。支援の方法を考える上では、友達と一緒にいると邪魔される感じがするとか、周囲が気になって集中しづらいなど、子ども自身が何に困っているのか、理由を聞いたり探ったりして対策を考えることが必要です。その際には、スムーズにできる場面に目を向けると、良い方法を発見できる場合があります。

このような考えを具体的に記述していく方法を、p 28から様式とともに示しています。本書でも留意点等を含んだ様式を第1章3で取り上げていますので参考にしてください。

2 自立活動の内容【6区分27項目】（p50～102）

区分	項目
1 健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> (1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

3 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集					
	②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階						
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における自立活動の区分を示している。						
②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階						
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における自立活動の区分を示している。						

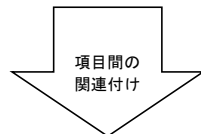
指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階					

⑤ ④に基づき設定した指導目標（ねらい）を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	
-----------------------------	--

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション



⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...	
-------------------------	---	---	---	-----	--

4 (注釈入り)
実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

・困難なことのみでなく、長所や得意としていることも記載する。
 ・保護者や心理学、医学、支援を受けている福祉施設などの立場からの情報も収集できるとよい。
 ・得られた情報を実際の指導に生かされることが大切。

【収集する情報の例】
 病気等の有無や状態、生育歴、基本的な生活習慣、人やものとのかわり、
 心理的な安定の状態、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、身体機能、視機能、聴覚機能、
 知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障害の理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、
 特別な施設・設備や補助用具(機器を含む。)の必要性、進路、家庭や地域の環境、保護者の教育に対する考え等
 * 本書第3章資料のチェックリストで強み弱みを整理することも有効です。

p107

実態把握

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
全体像を捉えて整理するために、①の内容が、自立活動の区分のどこに当たるか、振り分ける。					

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

これまでの学習状況の視点から、なぜそのような状況にあるか、既にできていること、支援があればできることなども記載する。

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

個別の教育支援計画(本書第3章資料)の卒業後または3年後の姿などを参考に、本人や保護者の意見を尊重しながら、将来に対して今のようなことが必要か、卒業までにどのような力をどこまで育むとよいのかを調整・整理する。

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している。

交流学級の担任等、関わりのある複数の教職員で検討する。

p108~

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

指導開始時点までの学習の状況から課題となることを抽出する。「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などで整理する。何に注目して課題の焦点化を行うかの視点を整理、共有する。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

③の課題同士の関連(「原因と結果」、「相互に関連し合っている」などの観点、発達や指導の順序)など因果関係の整理をする。

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

p110

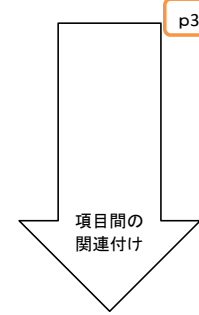
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

個別の教育支援計画や個別の指導計画との関連を意識しながら、長期の指導目標(～ができる)を記載する。
短期の目標が達成されて、それがやがて長期の目標の達成につながるという展望が必要。
短期の目標の展望を描く際には、④を参考に6区分27項目の中から必要な項目を選定するとわかりやすい。

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

p110

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	27項目から選定した項目を記載する。 幼・小・中・高と継続的に指導していく過程で指導内容の重複や欠落がないようにする。					



p30

⑦ 項目と項目を関連付けの際のポイント

何をすれば⑤の目標が達成できるか文章を分析し分けて考える。⑤の指導目標で「～ができる」ために、⑦のポイント(=根拠)にのっとり項目と項目を関連付けると⑧の指導内容ア～となる。
④で行った課題同士の関連や整理を振り返りながら検討する。

⑥と⑧を結ぶ線は、⑥の各項目と関連する⑧の具体的な指導内容とを結んだものとなる。

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

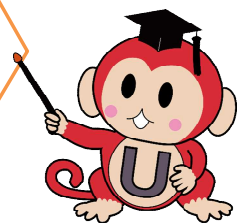
p111～

	ア	イ	ウ	...
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容、方法、手立てを記載する。 【配慮事項】 ア 幼・小・中 主体的に取り組む指導内容 イ 小・中 改善・克服の意欲を喚起する指導内容 ウ 幼・小・中 発達の進んでいる側面をさらに伸ばすような指導内容 エ 幼 自ら環境と関わり合う指導内容 オ 小・中 自ら環境を整える指導内容 カ 小・中 自己選択・自己決定を促す指導内容 キ 小・中 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容			

* ページ数は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)平成30年3月による

作成の目的をしっかりとおさえて記入しよう!

- 個別の教育支援計画を作成する目的
教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における、児童生徒の望ましい成長を促すため、教育機関が中心となって作成するもの。
- 個別の指導計画を作成する目的
教育課程を具体化し、障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するため。
- 本書p5～6(流れ図)を作成する目的
実態把握から指導目標(ねらい)を設定するプロセス(設定に至る考え方や指導の根拠)を明確にするため。



第2章では、指導の実際の事例を掲載しています。黄色のラインには、どのようなことを目的としているのかを記載していますので、目的と活動の関連を整理するうえで参考にしてください。